

外務省委託

平和構築・開発における グローバル人材育成事業

Global Peacebuilders Program

平成29年度 事業活動レポート

We work for world peace!



不死鳥を象ったHPCのロゴは、奇跡の戦後復興を遂げた広島で、紛争後の国を支援する平和構築のプロを育成するというHPCの基本精神を象徴しています。

一般社団法人 広島平和構築人材育成センター (HPC) URL : <http://www.peacebuilderscenter.jp>

東京事業運営事務所 : 〒102-0082 東京都千代田区一番町6 相模屋本社7F

広島本部事務所 : 〒734-0011 広島県広島市南区宇品海岸1丁目11-11-1003



私たちが目指す 平和構築の専門家の育成

主要機関からのメッセージ

河野 太郎 外務大臣

世界各地で繰り返される紛争、その発生と再発の防止に向けて、平和構築、紛争後の復興、開発から紛争予防に至る国際社会による柔軟で包括的な支援の強化がますます重要になってきています。特に平和構築及び開発支援においては、法の支配、人権擁護、ジェンダーに加え、航空、医療、サプライチェーン管理、人事、財務、リスク管理など、幅広い分野で活躍できる高い専門性と能力を持った文民専門家のニーズが高まる一方で、深刻な人材不足が顕在化しています。我が国は、国際協調主義に基づく積極的平和主義の下、本事業を通じて平和構築や開発の分野で貢献できる文民専門家の育成に取り組んできており、この事業に参加された皆さんが、国際社会の平和と繁栄の担い手として国際協力の最前線で活躍されることを心から願っています。



オリビエ・アダム 国連ボランティア計画 (UNV) 事務局長

平和の恩恵を受けること、あるいは参加型の社会、経済開発を進めることが極めて困難である地域や国において、ボランティアリズムは主要な役割を担っています。ボランティアリズムは緊急支援から復興までの移行を促進し、また脆弱な環境が慢性化しているコミュニティのキャパシティを強化する上でも重要な要素となっています。

広島平和構築人材育成センター (HPC) と国連ボランティア計画 (UNV) は互いに協力し文民専門家をグローバルなレベルで活躍する人材へと育成することを目的とし、「平和構築・開発におけるグローバル人材育成事業」を実施しています。事業は任地においてだけではなく自国においてもボランティアリズムを促進する人材を育成すると同時に、相互的な連帯が強まる世界において必要とされる豊富なキャリア、そしてリーダーシップを養成する機会を提供しています。

国連ボランティア計画は平和構築・開発におけるグローバル人材育成事業を通じて世界の最も困難といわれる地域における経済開発や平和構築に貢献しているボランティアをとても誇りに思っています。今後のキャリアを構築する段階に在る若い人々にとって任地での経験は貴重だけではなく、より自身の志を高めることとなるでしょう。彼らは任地での貢献以上に異なる文化、異なる国で生きる人々と共に暮らし、そして仕事をするというなにもに代えがたい経験をするのです。



長谷川 祐弘 HPC評議委員会委員長／平和構築・開発におけるグローバル人材育成事業プログラム・アドバイザー／元国連事務総長特別代表 (東ティモール代表)

ピースビルダーズの役割は、変換していく平和の本質と共に進化を遂げています。国連創設時には単に紛争のない状態を示唆していたものが、冷戦終結に伴い多様化しました。21世紀になってから、紛争の根源的な原因を除去し、法の支配と民主主義に基づいた永続的な平和の構築が、平和活動の任務となりました。近年の紛争の根源的な原因がイデオロギー化し、国際社会や関係諸国の指導者や市民の思考方法の変化と、普遍的な理念や人間の行動規範の融和を保ちながら、現地の社会の伝統と価値観の統合が求められて来ております。平和構築支援に携わる者は、現地社会の自覚と独立の精神を尊重し、指導者は自由と権利を自らの欲望の自制と他人への「思いやり」の気持ちで、新たな時代における新たな平和構築を目指すべきでしょう。



平和構築・開発における グローバル人材育成事業とは

本事業は、平和構築・開発分野で国際的に活躍していく人材を養成することを目的とした外務省委託の人材育成事業です。平和構築および開発分野で今後キャリア形成を目指す方のための「**プライマリー・コース**」、平和構築・開発分野にすでに従事して今後更なる活躍を目指す方のための「**ミッドキャリア・コース**」、また平和構築・開発分野のポスト獲得に必要なスキル・知識等を提供する「**キャリア支援セミナー**」などを実施します。

8年間にわたり、外務省委託「平和構築人材育成事業」を実施した広島平和構築人材育成センター (Hiroshima Peacebuilders Center: HPC) が、本事業の運営にあたり、プライマリー・コースの海外実務研修部分は国連ボランティア計画 (United Nations Volunteers programme: UNV) が実施しています。



平和構築・開発の担い手が必要です

現代世界は、激変しています。平和、開発、人道的問題を見ても、世界的な規模で広がりながら、新しい様相を見せています。問題の解決に立ち向かう専門家が、必要とされています。強い意思を持って現実に向かいながら、柔軟に専門を活かしている人材が求められています。

もちろん理想を語るだけでは足りません。地に足を付けて仕事を遂行し、自分自身のキャリアを確立しながら、世界に貢献していける人材が必要とされています。長期的なビジョンを持ちながら、自分自身の生活を作っていける人物こそが、平和構築・開発／人道支援の専門家として、求められています。

本事業は、危機に立ち向かう支援の担い手を一人でも多く育成していくために、開始されました。専門家になるための知識・技能を付与するだけでなく、様々な経験を通じて自分自身のコンピテンシー (業務能力) を磨き直す機会も提供し、専門家との交流を通じた切磋琢磨する専門家コミュニティのネットワークを広げていくことも手助けします。

日本の平和構築の経験を活かしながら、国際社会で活躍する専門家を「ヒロシマ」から送り出していくことを目指します。それは日本が平和構築にいかに関心を取り組むのかを世界に示すメッセージにもなるでしょう。

過去の「人材育成事業」から、多くの専門家が育っています。自分自身のキャリアを構築することを通じて、世界に貢献している専門家たちが、アフリカで、アジアで、日本で、世界の様々な場所で、活躍をしています。修了生たちの足跡こそが、「人材育成事業」が素晴らしい意味を持っていたことを示しています。

さらなる貢献のために、日本から世界各地に飛び立っていく国際的な専門家を、世界の多くの人々は待っています。



篠田 英朗

HPC代表理事／平和構築・開発におけるグローバル人材育成事業プログラム・ディレクター／東京外国語大学教授

ロンドン大学 (LSE) Ph.D. (国際関係学)。平和構築などに関する著書・論文を多数執筆。代表作: 『平和構築と法の支配』 (大佛次郎論壇賞)、『国家主権という思想』 (サントリー学芸賞)、『集团的自衛権の思想史』 (読売・吉野作造賞) など。

本事業の運営にあたって

本事業の運営にあたって、実施団体であるHPCとしては、平和構築・開発の担い手を育成する、という目標に徹底的にこだわりたいと考えています。そのためにHPCは、参加者の意識・能力・環境の向上を図ることを目指しています。

まず、本事業に参加した人々が、平和構築・開発／人道支援に対し一層強い意思を固めていくようになってほしいと願っています。世界の問題について深く知り、その解決方法について関心を強めていくことを通じて、使命感とともに、自信を深めてもらいたいと考えています。国際的支援に貢献する意欲に満ち溢れた人材が、さらにその意欲を高めることができるような事業にしたいと考えています。

ただし、平和構築・開発／人道支援の専門家になるためには、専門分野に精通した能力が必要です。最先端の知識・技能を効果的に参加者の方々に身に付けてもらうための工夫を施すことは当然極めて重要なことになります。平和構築・開発／人道支援の最前線で活躍している方々の知見を最大限に吸収することができるような事業にしたいと考えています。

加えて、HPCは、平和構築・開発／人道分野の専門家が自分自身のキャリアを構築し続けていける環境を整備していくことを心がけます。本事業の参加者が得られる財産は、こうした分野の専門家コミュニティに加わることによって得られる人的ネットワークであるとも言えるでしょう。励ましあい、刺激を与え続ける年齢や国境を越えた仲間たちを培うことによって、専門家が専門家として進み続けるキャリア構築の環境が生まれてきます。こうした国際支援に情熱を持つ人々が、自分たち専門家コミュニティを形成していくことができるような事業にしたいと考えています。

人材育成は、簡単に結果が見えてくることはない、息の長い作業です。しかしそれだけに醍醐味のある活動です。HPCは、本事業をいっそう発展させてくれる新しい仲間を歓迎し続けています。



CONTENTS

主要機関からのメッセージ P.2

平和構築・開発における
グローバル人材育成事業とは P.3

プライマリー・コース
国内研修 P.4

プライマリー・コース
海外実務研修 P.6

キャリア構築 P.7

ミッドキャリア・コース P.8

キャリア構築支援 P.10
■キャリア支援セミナー

その他の活動 P.11
■JPO派遣候補者赴任前研修
■海外機関との関係強化
■人材ニーズ調査

プライマリー・コース 国内研修

世界最高水準の講師を迎え、現場での即戦力を育成

平成30年1月12日から2月24日の約6週間にわたり、東京と広島においてプライマリー・コースの国内研修を実施しました。プライマリー・コースは、平和構築及び開発分野においてキャリアを構築する強い意志を持つ人々を対象に、平和構築・開発支援のために活動する人材を育成することを目的として実施しています。

国内研修には、日本人研修員15名、アジア・中東・アフリカ各国の外国人研修員10名の計25名が参加しました。世界各地の平和構築・開発の現場経験が豊富な講師陣の下、当分野の専門家として必要な実践的知識・技能・経験を研修員が得られるよう、紛争状況の分析や活動の立案、多様な組織の調整や情勢に応じた活動の管理といった問題意識に応じた研修を実施しました。また、その効果を最大限に高めるために、ロール・プレイやチーム作業といった演習を様々なテーマで行いました。

日本人研修員は国内研修終了後、海外実務研修において国連ボランティアとして平和構築・開発分野の現場で活動している国際機関等へ派遣され、実際の平和構築・開発の業務に従事します。充実した国内研修を通じ平和構築・開発の専門家への第一歩を踏み出す研修員たちの今後の活躍が大いに期待されます。



平成30年1月17日、研修員による外務省表敬訪問



Message

講師

玉内 みちる

株式会社ロータス・インサイト・グローバル代表取締役／
元UNICEFインド事務所人事課長

プライマリー・コースでは、研修員の方々の国連におけるキャリア形成や国連人事・採用システムに関する講義と模擬コンピテンシー（業務能力）・インタビューなどの個人指導を担当しています。このコースは、参加型のシミュレーション・ワークショップ等を通して、“国連の現場で働いている”感覚が実践的に体験できるとても貴重なプログラムとなっています。熟練した一流の講師陣のもとで、国連・国際機関の職員に必要な実践的な知識とコンピテンシーを果敢に学び、自分の可能性を伸ばすために真剣に取り組む研修員の姿は素晴らしいと思います。国連機関でプロフェッショナルとして働くには、高いレベルの語学力、修士号、専門的分野の知識や経験、そして様々なソフトスキルが必要ですが、それと共に応募書類やインタビューを通して、“自分の資質や即戦力感をアピールできる”コミュニケーション能力も不可欠です。採用はもちろん、人材育成や勤務評定にもコンピテンシーの概念が使われます。16年間にわたって国連人事に携わった者として、戦略的に国連キャリアを準備・構築していくノウハウを伝授できるのは、光栄であり本当にやりがいがあることだと感じています。コースが終わってからも、世界中の様々な国連機関で活躍されている研修員の方々に持続的な指導を提供し、側面からキャリア構築を応援しています。

国内研修カリキュラム・講師紹介

Commencement Ceremony

開講式

大鷹 正人

外務省総合外交政策局審議官／国連担当大使

外務省表敬訪問

堀井 学

外務大臣政務官

第1週

古本 秀彦

国連難民高等弁務官 (UNHCR) 駐日事務所
渉外担当官

中井 恒二郎

国連世界食糧計画 (WFP) 日本事務所
政府連携担当官

根本 巳欧

国連児童基金 (UNICEF) 東京事務所 副代表

佐藤 美央

国際移住機関 (IOM) 東京事務所 駐日代表

小森 剛

独立行政法人国際協力機構 (JICA) 社会基盤・
平和構築部 平和構築・復興支援室 企画役

保田 由布子

国連開発計画 (UNDP) 駐日代表事務所
渉外・広報官

中村 浩平

外務省総合外交政策局国際平和協力室 室長

長谷川 祐弘

HPC評議委員会委員長／平和構築・開発に
おけるグローバル人材育成事業プログラム・
アドバイザー／元国連事務総長特別代表
(東ティモール代表)

陸上自衛隊駒門駐屯地訪問

佐藤 和之

陸上自衛隊 中央即応集団国際活動教育隊 隊長



篠田 英朗

HPC代表理事／平和構築・開発における
グローバル人材育成事業プログラム・
ディレクター／東京外国語大学教授

上杉 勇司

平和構築・開発におけるグローバル人材育成
事業プログラム・オフィサー／早稲田大学教授

玉内 みちる

株式会社ロータス・インサイト・グローバル
代表取締役／元UNICEFインド事務所 人事課長

第2週：アナリシス

紛争分析の理論と様々な方法

政治的・法的分野 (和平調停・
裁判所等) の政策的課題



マーシャル・コンリー

コンリー国際教育コンサルタント代表

水田 慎一

国連ソマリア支援ミッション (UNSOM) 官房長室
統合分析チーム長

平原 弘子

国連南スーダン共和国ミッション (UNMISS)
ベンティウ事務所 所長

ジョマート・オルモンペコフ

国連政治局 北京駐在政務調整官／
元駐モルディブ共和国国連常駐事務所
平和と開発アドバイザー

アブラハム・アオリッチ

スッド・インスティテュート総務・財務ディレクター／
南スーダン国民対話事務局副調整官

デズモンド・モロイ

HPCコースメンター／日本財団ミャンマー
リエゾンオフィス 上級プログラム・ディレクター

玉内 みちる、篠田 英朗、上杉 勇司

第3週：プランニング

プロジェクト／ミッション立案の手法

安全保障分野 (DDR・SSR・PKO
ミッション等) の政策的課題



フィリップ・シェトラー・ジョーンズ

世界経済フォーラム 国際安全保障・地政学
プラクティスリード／元国連平和維持活動局
(DPKO) 統合ミッション企画担当官／元国連
スーダンミッション (UNMIS) 事務総長特別
副代表事務所政務官

ジャック・クリストフィーズ

国連平和維持活動局 (DPKO) アフリカⅡ部
部長

モハメド・エル・アミン・スエフ

コモロ連合外務・国際協力・仏語圏、在外コモロ
人担当大臣／元国連マリ多面的統合安定化
ミッション (MINUSMA) ガオ地域事務所 所長

長谷川 祐弘、デズモンド・モロイ、
玉内 みちる、篠田 英朗、上杉 勇司



第4週：コーディネーション

多様な組織間の業務調整・交渉の手法

人道援助活動 (ジェンダーや
児童保護等含む) の政策的課題

忍足 謙朗

HPC評議委員／元国連世界食糧計画 (WFP)
アジア地域局長

ギョーム・フォリオ

人道問題・緊急管理に関する独立コンサル
タント・講師

ピーター・コゼレツ

国連難民高等弁務官 (UNHCR) バンコク事務所
国際人道援助緊急事態対応訓練 地域センター
コーディネーター

大庭 真理枝

国連コンゴ民主共和国安定化ミッション
(MONUSCO) 選挙局 ジェンダー・選挙顧問

藤原 広人

国際刑事裁判所 (ICC) 書記局・対外活動局
国別分析ユニット長

イ・キョンシン

韓国国際開発協力民間協議会プログラム・
ディレクター

ジョン・キャンベル

人道・安全・初期対応トレーナー／国際NGO
グローバル安全アドバイザー

ルイス・ロビンソン

InSiTuトレーニング ディレクター (上級人道
支援アドバイザー・安全トレーニング専門家)

玉内 みちる、篠田 英朗、上杉 勇司

第5週：マネジメント

プロジェクト運営の手法

開発援助活動 (各種援助スキームを
通じた支援) の政策的課題

稲葉 光彦

国連ボランティア計画 (UNV) 管理サービス部
オペレーション課長

中村 俊裕

コペルニク (Kopernik) 共同創設者兼CEO／
大阪大学大学院国際公共政策研究科招聘
准教授／元国連開発計画 (UNDP) シェアラネ
事務所駐在代表補佐・戦略企画アドバイザー

小松原 茂樹

国連開発計画 (UNDP) アフリカ局 アフリカ
開発会議 (TICAD) プログラム・アドバイザー

ママドゥ・ウンダウ

国連開発計画 (UNDP) エチオピアアフリカ
地域事務所 結果重視マネジメント (RBM) ・
評価アドバイザー／チームリーダー

メムナツ・ブラット

シェアラネ大学ファラベイ・カレッジ
平和紛争学部上級講師／客員教授

忍足 謙朗、ジョン・キャンベル、
玉内 みちる、篠田 英朗、上杉 勇司

第6週：安全管理術／ キャリア構築／ キャリア・マネジメント

佐藤 知央

オフィスクラッチ代表 (キャリアコンサルタント
として人材育成・活用に関するコンサルティング
及び研修に従事)

ジョン・キャンベル、ルイス・ロビンソン、
忍足 謙朗、玉内 みちる、篠田 英朗

Message

プログラム・オフィサー

上杉 勇司

平和構築・開発におけるグローバル人材育成事業
プログラム・オフィサー／早稲田大学教授

セント大学Ph.D. (国際紛争分析)。国家建設、治安
部門改革、民軍関係に関する編著を出版。著書：
『紛争解決入門』、『変わりゆく国連PKOと紛争
解決』(国際安全保障学会加藤陽三賞)。第2回秋野
豊賞受賞。

この事業にかかわって11年が過ぎました。パイロット事業の時代から何回かの変更を取り入れながら、時代の要請に合わせて、人材育成事業は変化・進化を遂げてきました。

継続は力です。11年間も続けられた本事業は、日本の国際平和協力の柱の一つに位置づけられるようになりました。この蓄積をいかに効果的に活用していくのが今後の課題として挙げられるでしょう。

日本人以外の研修員を積極的に受け入れてきたことが、本事業の最大の魅力でした。地味ではありますが、日本が国際社会に果たしてきた効果的な貢献として誇ってもよいのではないのでしょうか。平和構築支援を必要とする社会との真の協力関係を築くうえで、本事業が果たしてきた役割は、潜在的に大きいと思います。

たとえば、国際社会に開かれた人材育成の取り組みのなかでも、欧米社会の理念や手法ではなく、私たち日本人が国際社会との二人三脚をしていくなかで辿り着いた取り組みを基盤にしている点は、本事業の重要な特徴だといえるでしょう。本事業を通じて、研修員のあいだに仲間としての意識が醸成され、互いが同志としてつながってきたことは、次に新しい取り組みを推進するための要として機能していくでしょう。

これまでの努力を結集させ、日本が新しい平和構築支援の理念や手法を提案していくことができます。そこで強調したいことは、本事業を通じて育成された日本国内外の人材や人材のネットワークを最大限に活用していくことが大切だという点です。人材育成事業の第二段階への展開を考える時期にさしかかったといえるでしょう。

Pick up

講師

ジャック・クリストフィーズ

国連平和維持活動局 (DPKO) アフリカⅡ部 部長

平和活動での豊かな経験を持ち、専門は人権問題。

国連平和維持活動局 (DPKO) ／国連フィールド
支援局 (DFS) 政策・評価・訓練部長、スーダン及び

大湖地域チームリーダー、国連レバノン特別調整官事務所 (UNSCOL) 官房長、ダルフルール合同調停支援チーム長、国連スーダンミッション政務局長、人権高等弁務官事務所首席補佐官を歴任。2008年には国連21賞を受賞。

このコースは講師陣による事例

研究及び学術面と実践のバランスのとれた講義に重点を置いています。外国人および日本人研修員の皆さんが平和構築の課題に取り組むための準備をするこのコースに私自身も参加できることを嬉しく思います。



プライマリー・コース 国内研修



Message

研修員

ヘンリー・チャールズ・コーネリオ・サンバイ (南スーダン)

プライマリー・コースにおける初めての南スーダン人として日本に行き、「平和を愛する人々」から学べることをとても光栄に思います。平和は、戦争で荒廃した私たちの国で待ち望まれているものであり、また平和構築における実践を学べるこの機会は、私や同僚たちが

ピースビルダーズとしてのキャリアを形成していくために役立つと確信しています。

HPCのスタッフや、個性豊かで素晴らしい講師陣によって構成されたこのコースは興味深く、また得がたい機会であり、研修員を代表して、感謝の意を述べたいと思います。実際に、参加型講義の中で活用された平和構築に関する教材は非常に貴重なものであり私の期待に沿ったものでした。加えて、豊富な知見と経験を持ち、研修員ひとりひとりに指導することを厭わない講師の方々との連絡を取り合えることはまたない機会です。日本という国が「質の高さ」で知られているように、このコースもまた非常に質の高いものです。私は仲間の研修員たちが世界中のどこへ行こうとその場所に变化をもたらすと確信しています。

繰り返しになりますが、外務省を代表とする「平和を愛する人々」に対し、心から感謝を申しあげると共に、日本と世界との連帯が恒久的平和を世界にもたらすことを祈っています。



Message

研修員

四居 美穂子

飲料メーカーのサステナビリティ部門にて約4年間、復興応援や地域活性事業に携わったのち、開発分野で働きたいという昔からの夢を追うべくプライマリー・コースに参加しました。国内研修中はプライマリー・コース修了生を含む世界の最前線で働く講師陣が

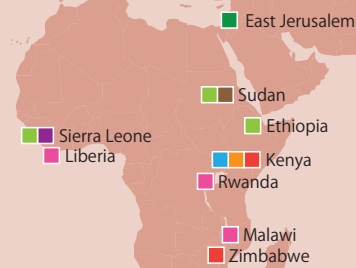
全面的にサポートしていただき、さまざまなバックグラウンドで同じ志を持つ研修員とグループワークを重ねることで大変密度の濃い6週間を過ごしました。分析やプランニング手法などを体系的に学ぶことに加え、各現場を想定した実践的な演習を通して、短期間に集中して国際機関で働く上で必要なスキルの向上を図れたように思います。また、今まで民間企業で培ってきた経験を平和構築や開発の文脈に応用させて考える良い機会にもなりました。このコースで学んだことを活かし、将来は官民連携/パートナーシップの分野で活躍できればと思っています。



プライマリー・コース 海外実務研修

平成28年度プライマリー・コースの海外実務研修先

- UNDP (国連開発計画)
マラウイ、ミャンマー、リベリア、ルワンダ
- UNESCO (国連教育科学文化機関)
ケニア
- UNHCR (国連難民高等弁務官事務所)
ケニア
- UNICEF (国連児童基金)
エチオピア、シエラレオネ、スーダン
- UNOPS (国連プロジェクトサービス機関)
シエラレオネ
- UNRWA (国連パレスチナ難民救済事業機関)
東エルサレム
- OCHA (国連人道問題調整事務所)
スーダン
- WFP (国連世界食糧計画)
ケニア、ジンバブエ、ミャンマー



平成19年度～28年度
までの10年間の
派遣先機関数：

22機関

派遣先総数：

49ヵ国・地域

※ミッドキャリア・コースを含む



Message

平和構築人材育成事業
平成23年度本コース※研修員

※平成27年度よりプライマリー・コース

野村 純子

国連難民高等弁務官 (UNHCR) ミャンマー事務所
プログラムオフィサー

平成23年度の研修員としてUNHCR/ルワンダ事務所にAssociate Reintegration Officerとして派遣され、

その後も引き続きUNHCRのミャンマーやウガンダ事務所にプログラムオフィサーとして勤務してきました。平和構築人材育成事業に参加してからこれまでの6年間、UNHCRの裨益者である難民や国内避難民、帰還民に対する緊急援助や平和構築

支援等に携わり、また政府やドナー、他の援助機関との調整や連携など幅広い分野で人道支援に携わることができたとともに、平和構築分野におけるキャリア構築においても貴重な経験をさせていただきました。「本コース」に参加する前は国連機関での勤務経験はゼロの私でしたが、国内研修中にフィールド経験のある講師から学んだ実践的な講義はとても役に立ち、また専門性が高く様々なバックグラウンドを持った同期から多くを学び、とても力強い存在でした。今後はワークライフバランスを大切にしながら、引き続き国連機関で人道支援等に携わることが出来ればと思います。



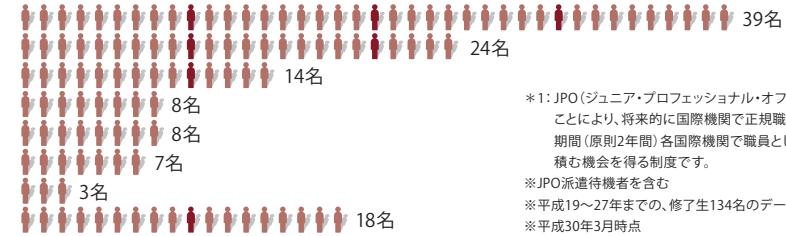
海外実務研修中、ルワンダの難民キャンプにて服の配布後に子供達と。

キャリア構築

修了生の現在のフィールド

コース終了後の研修員は、国連機関をはじめ、さまざまなフィールドで活躍しています。

- 国連・国際機関
- JPO*1 (国連・国際機関)
- 政府
- JICA
- 民間
- 大学・大学院
- NGO・NPO
- その他



*1: JPO (ジュニア・プロフェッショナル・オフィサー) とは、日本政府が派遣にかかる経費を負担することにより、将来的に国際機関で正規職員として勤務できることを志望する若手日本人が、一定期間 (原則2年間) 各国際機関で職員として勤務し、正規職員となるために必要な知識・経験を積む機会を得る制度です。
※JPO派遣待機者を含む
※平成19～27年までの、修了生134名のデータ (うち、過去1年以上確認ができていない13名を除く)
※平成30年3月時点

研修後の主な活躍の場

国連機関 ▶ UNDP (国連開発計画) ▶ UNHCR (国連難民高等弁務官事務所) ▶ UNICEF (国連児童基金) ▶ UNESCO (国連教育科学文化機関) ▶ WFP (国連世界食糧計画) ▶ FAO (国連食糧農業機関) ▶ UN Women (ジェンダー平等と女性のエンパワーメントのための国連機関) ▶ UNCRD (国連地域開発センター) ▶ UNRWA (国連パレスチナ難民救済事業機関) ▶ OUNF&P (国連基金・計画事務所) ▶ DPKO (国連平和維持活動局) ▶ WHO (世界保健機関) ▶ UNMAS (国連PKO局地雷対策サービス部) ▶ UNV (国連ボランティア計画) ▶ UNRCPD (国連アジア太平洋平和軍縮センター) ▶ UNOPS (国連プロジェクト・サービス機関) ▶ UNFPA (国連人口基金) ▶ UN Secretariat (国連事務局) ▶ UNU (国連大学) ▶ UN-Habitat (国連人間居住計画) ▶ OCHA (国連人道問題調整事務所) ▶ UNODC (国連薬物犯罪事務所) ▶ IOM (国際移住機関) ▶ PKO訓練センター ▶ KAIPITIC (コフィ・アナン国際平和維持訓練センター) 国連平和活動ミッション ▶ MONUSCO (国連コンゴ民主共和国安定化ミッション) ▶ UNAMA (国連アフガニスタン支援ミッション) ▶ UNAMID (ダルフルル国連AU合同ミッション) ▶ UNAMI (国連イラク支援ミッション) ▶ UNIOGBIS (国連ギニアビサウ統合平和構築支援事務所) ▶ UNMIS (国連スーダンミッション) ▶ UNMISS (国連南スーダン共和国ミッション) ▶ UNSOM (国連ソマリア支援ミッション) ▶ UNMC (コロンビア特別政治ミッション) 国際機関 ▶ INTERPOL (国際刑事警察機構) ▶ ICRC (赤十字国際委員会) ▶ World Bank (世界銀行) ▶ OSCE (欧州安全保障協力機構) ▶ NGO ▶ Medecins du Monde Japon (世界の医療団) ▶ JCCP (日本紛争予防センター) ▶ International Lifeline Fund ▶ World Vision Japan ▶ INTERSOS ▶ ADRA Japan ▶ NICCO (日本国際民間協力会) ▶ Action Contre la Faim ▶ CCP Japan (パレスチナ子供のキャンペーン) ▶ ケア・インターナショナル 政府関係機関 ▶ 外務省 (本省・在外公館) ▶ 内閣府 ▶ JICA (日本国際協力機構) ▶ JICE (日本国際協力センター) ▶ 広島県 ▶ 鈴鹿市 ▶ 入国管理局 その他の公的機関等 ▶ IGES (地球環境戦略研究機構) ▶ 結核予防会結核研究所 ▶ 笹川平和財団 ▶ 教育機関、医療機関、法務・政務事務所等

キャリア構築例

	研修参加前	海外実務研修	研修終了後のキャリア
 迫田 恵子さん <平成22年度4期生> 応募動機 平和構築や開発に関して、専門的に学んだことがなかったため、短期間で座学から実務的な内容まで体系的に学ぶことができ、またUNVとして実践する機会に繋がることができる点が大きな魅力でした。当時、民間企業勤務だったため、開発分野へキャリアを転換する機会として応募しました。	国内の大学・大学院で建築を学び、インドネシアの国連機関でのインターン、短期コンサルタントなどをを経て、民間の経営コンサルティング会社勤務。	南スーダンの国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) にて、紛争後、10年近く過ごした難民キャンプから自国に戻ってきた帰還民の再定住支援として、住宅およびその他主要インフラ (井戸、クリニック、教室など) の建設事業に従事。自衛隊との連携案件として、帰還民が一時的に宿泊する施設の建設事業の立ち上げ・実施も行った。	JICAモンゴル事務所にて防災・環境・気候変動担当の企画調査員を経て、現在、世界銀行にて防災専門官として勤務。世界銀行東京防災ハブでの勤務を経て、ワシントン本部にて、南アジア地域の防災・気候変動対策業務に従事。
 景山 健さん <平成24年度6期生> 応募動機 NGO職員として南スーダンに駐在していた際に、国際社会からの支援の全体像を知りたいと思い、またどの様に南スーダンの和平に貢献できるのかを知りたいと思い応募しました。	大学卒業後、アメリカの大学院で経営学を専攻。民間企業の財務部門で勤務した後、南スーダン共和国でNGO職員として主に水衛生分野及びシェルター分野での支援活動、オフィスの管理業務に携わる。	国連難民高等弁務官 (UNHCR) タジキスタン事務所で、プログラムアシスタントとしてパートナーNGOと共にプロジェクトの立案・実施に携わり、当該NGOの能力強化として財務・会計指導、監査準備プロセスの改善などに従事。	NGO職員としてイラク・シリアの人道支援を担当し、その後国連児童基金 (UNICEF) の財務管理部で予算セクションに勤務。
 荻本 貴子さん <平成27年度9期生> 応募動機 国際機関においてジュニアスタッフとしての実務経験を積む機会を得ることができると同時に、実践に重きを置いた国内研修を通して幅広いスキルを習得することができると考えました。	大学院にて公共政策学を専攻後、政府系開発金融機関での3年間の勤務を経て、在タンザニア日本大使館にて援助協調を専門とする経済協力調整員として勤務。その後、UNHCRタンザニア事務所にてインターンを通じて業務経験を得る。	UNHCRマケドニア、スコピエ事務所のプログラム部署において、オペレーション計画、予算、モニタリング、ドナー対応、プロジェクトコントロール業務に従事。当時スコピエ事務所は、バルカン半島難民危機の対応で複雑かつ目まぐるしい業務環境にあり、厳しくも実りの多い1年であった。	UNHCRジュネーブ本部中東・北アフリカ局の国担当補佐官として、イエメン、イスラエル、湾岸諸国を担当し、本部レベルでの予算折衝、オペレーション運営方針の策定等業務に従事。現地事務所と本部を繋ぐ窓口担当者として現地事務所を支援するとともに、UNHCRの方針と規則に関するガイダンスの提供を通して現地事務所のコンプライアンス管理にも従事。

ミッドキャリア・コース

平和構築・開発専門家の更なるキャリア構築のためのスキル、能力の深化と実践

ミッドキャリア・コースは、平成29年9月10日から16日の7日間にわたり、東京で実施されました。平和構築・開発分野にかかわる実務に既に7年以上従事している方々を対象に、国連やその他の国際機関における平和構築・開発分野でのキャリア発展を目的として実施されました。日本人11名、外国人5名の計16名が参加し、9月9日には国連や国際機関での勤務未経験者を対象に、平和構築及び開発における国連システムに関し、事前研修を実施しました。

本研修では、組織における立場の変化と複雑化する業務への対応という課題において、必要となる総合的な応用力養成を目指し、ロール・プレイ演習などを通じて国際機関における「コンピテンシー（業務能力）」である「コミュニケーション／ネゴシエーション」、「リーダーシップ／マネジメント」の強化に焦点をあてました。講師陣のフィードバックをもとに更なる個々人のパフォーマンス向上を図り、グループエクササイズを通してネットワークの形成が図られました。



Message

講師

野田 章子

駐モルディブ共和国国連常駐調整官／国連開発計画（UNDP）常駐代表



現在モルディブで国連常駐調整官として国連システムの代表を務める私のキャリアをみると、私がこれまで平坦なキャリア形成をしてきたと思う人もいかもしれませんが、私も他の多くの方々と同様に特にミッドキャリアの時期には、キャリア形成に非常に苦労しましたので、これまで私が経験し、乗り越えてきた困難について参加者の皆さんにお話することができたことを嬉しく思っています。様々な指導者と共に、また自身も管理職として働いてきて、リーダーシップスタイルは一般化できるものではないと思うようになりました。キャリアとして伸ばすべき部分を認知しつつ、仕事における強みに基づいたリーダーシップを築いていくべきだと思います。研修中には、世界における国連代表のジェンダー比率についての統計も見せました。それは過去何年間で改善されてきたものの、いまだに更なる改善の余地があるといえるでしょう。特に女性の皆さんに対して、「ガラスの天井を破って活躍していこう」というのが私からのメッセージです。



カリキュラム・講師紹介

事前研修

小山田 英治
HPC評議委員／同志社大学大学院
グローバル・スタディーズ研究科教授

小阪 真也
立命館大学政策科学部政策科学科助教

1st. Stage 国際機関におけるコミュニケーションと交渉能力

Day 1 概要：コミュニケーションと交渉

Day 2 実践的な対人スキル

Day 3 実践的な広報スキル

アンドリュー・カシム
クルーシャル・コミュニケーション
代表取締役

忍足 謙朗
HPC評議委員／元国連世界食糧計画（WFP）
アジア地域局長

長谷川 祐弘
HPC評議委員会委員長／平和構築・
開発におけるグローバル人材育成事業
プログラム・アドバイザー／元国連事務
総長特別代表（東ティモール代表）

上杉 勇司
平和構築・開発におけるグローバル人材育成
事業プログラム・オフィサー／早稲田大学教授

2nd. Stage 国連システムにおけるリーダーシップとマネジメント能力

Day 4 国連平和活動の機能と動向

Day 5 概要：リーダーシップとマネジメント

Day 6 演習：計画立案におけるリーダーシップ

Day 7 演習：国連システムにおけるリーダーシップ

マイク・フィグリオリ
ソートリダース創設者・代表取締役

中村 浩平
外務省総合外交政策局国際平和協力室 室長

田中 美樹子
駐ガイアナ共和国国連常駐調整官／
国連開発計画（UNDP）常駐代表

篠田 英朗
HPC代表理事／平和構築・開発における
グローバル人材育成事業プログラム・
ディレクター／東京外国語大学教授

野田 章子
駐モルディブ共和国国連常駐調整官／
国連開発計画（UNDP）常駐代表

アンドリュー・カシム、長谷川 祐弘、忍足 謙朗、
上杉 勇司



Message

参加者

辻坂 文子

元国境なき医師団 海外派遣スタッフ（財務・人事コーディネーター）

ミッドキャリア・コースに参加し、たいへん多くの学びを得ることができました。

前半のコミュニケーション／ネゴシエーションについての研修は、知識が豊富で刺激的な講師陣によるとても実践的な内容で、コミュニケーションのスキルを高める秘訣を得ることができました。ロール・プレイや講師と参加者からのフィードバックは自分のスキルの向上につながったと確信しています。後半のリーダーシップについての研修では、国連システムにおける平和構築・人道・開発援助の分野で責任あるポストを長く務められた講師の方々から、様々な経験に基づくリーダーシップ論を学びました。彼らが政治的・物理的に困難な状況でどのようにそれらを乗り越え、リーダーシップを養ってきたかについて学ぶ非常に貴重な機会でした。またそれらは働く組織や立場が違っても応用できる考え方であると思いました。私にとって、これまでかかわることのなかった平和構築の実務面について学ぶことができたのも有意義でした。そして、様々な分野で働く参加者との交流を通じて、自分の経験を見直し、今後のキャリアについて考えるよい機会になりました。



Message

参加者

クリスティアン・P・ララ（コロンビア）

デューク大学 サンフォード公共政策大学院 国際開発政策
フェロー／元国連南スーダン共和国ミッション（UNMISS）
救援・再統合・文民保護部 チームリーダー

リソースパーソンとして選出され、ミッドキャリア・コースに参加できたことを光栄に思います。この

コースは、平和構築・人道問題・開発分野における中堅実務家たちの専門性を向上させるための主要な課題について深く考えることができる非常に貴重な機会です。

私はこれまで9年以上人道問題と平和維持活動に携わり、そのうち7年間は国連システムの中にいた経験があるため、このプログラムには非常に大きな付加価値があると確信しています。なぜならグローバル組織としての国連は、人道支援を調整・準備し、多面的な平和維持を通じて平和を促進し、そして人権を最前線で保護することにより、最も不遇な人々の生活の向上に向けて行動するための適切なスキルを持った人材を必要としているからです。より少ないものでより多くを行うことが必要不可欠であり、そのためにはコミュニケーション能力、リーダーシップ、困難な状況に適應する確かな能力、および急速に変化する環境下で、しばしばプレッシャーと極限状態の下で、自律的にニーズや課題に応える能力が最適な形で組み合わせられなければなりません。

ミッドキャリア・コースに選ばれた参加者だけでなく、講師陣の質は、私の日本訪問を個人的に、そして専門的な経験として、とても思い出深いものにしました。



※講師・参加者の写真は平成29年9月当時のものです。

キャリア構築支援

キャリア構築支援とは

平和構築・開発におけるグローバル人材育成事業では、平和構築・開発分野の国際機関等での就職を希望する方を対象に、ポストに応募する際に有益となるノウハウ（履歴書の作成、面接の応対等）を提供します。

キャリア支援セミナー

今年度のキャリア支援セミナーは、平和構築・平和維持及び開発に関連する分野で5年以上職務経験を持ち、今後、国連機関で働くことを希望する日本人の実務家43名を対象に、同分野における国連ポストの獲得に必要な知識とスキルを習得する機会として実施されました。まず、講師から全体向けのガイダンスがあり、その後は個別面談指導を実施しました。個別面談指導では、各参加者が平和構築・平和維持と開発分野に分かれ、講師と一対一で参加者の経歴に即したより綿密なアドバイスを受けました。本セミナーでの研修内容を活かして、将来的に国連機関で活躍する人材が輩出されることを期待します。

カリキュラム・講師紹介

日 程

11月3日（祝）大阪
11月4日（土）東京
11月5日（日）東京

内 容

- 全体向けのガイダンス
- 個別面談指導（1人につき約30分間）

平和維持／
平和構築分野担当講師

アンソニー・P・ダンカー
国連フィールド支援局（DFS）
フィールド人事部次長

開発分野担当講師

ナウアル・ドリウェシ
国連ボランティア計画（UNV）
人事課長



Message

参加者



多田 慎吾

独立行政法人国際協力機構（JICA）研修事業担当

かねてより関心のあった平和構築の分野でどのようにキャリアを積んでいくことができるのか、これを知るために私はこのキャリア支援セミナーに応募しました。

セミナーには講義と個人面談があり、講義では国連に応募の際に見落としがちなアピールポイント、表現の留意点から、具体的な面接時間まで、実際の採用担当者だからこそ教示できるポイントを学ぶことができました。面談では目標達成までの自己課題と可能性について貴重な示唆をいただきました。私自身、職種を変えた転職を多く繰り返していたので、方向性に迷うこともありましたが、むしろそれが強みとなることも知り、迷いはむしろ自信に近づいたと思います。また昼食時の参加者との交流でも多くを学ぶことができ、視野が非常に広がりました。

応募の留意点、個人課題、さらには人脈形成にいたるまで、本当に貴重な学びの時間をいただきました。将来の選択肢に国連を考えている方には是非参加をお勧めします。



Message

講 師

アンソニー・P・ダンカー

国連フィールド支援局（DFS）フィールド人事部次長

キャリア支援セミナーに再び講師として参加させていただいたことを光栄に思います。このセミナーは参加者の皆さんにとって、

国連平和活動におけるやりがいのあるキャリアを学ぶよい機会だったと思います。

フィールド人事部では、国連平和維持活動と特別政治ミッションに優れた文民を派遣することを目標としています。平和活動に貢献するいわゆる「ブルー・ヘルメット」と呼ばれる軍事・警察要員だけでなく、1万人を超える現地職員やUNボランティアと共に、5千人近くの国際文民職員がフィールドで活動しています。

文民スタッフは平和活動の最前線に立っています。地域社会の紛争調停のためには民政官が求められ、人権侵害を調査し、法の支配を広めるためには人権担当官、平和的移行やその他の多様な平和構築業務について助言するためには政務官が求められます。また、ロジスティックス、サプライチェーン、エンジニアリング、航空、管理の担当職員も困難な環境下で複雑なミッションを円滑に遂行するためには欠かせない存在です。

日本は、国連の平和活動への主要な貢献国です。私は、参加者の皆さんにフィールドポジションに応募するための必要な情報と実践的なアドバイスを共有することができたことを嬉しく思います。今回のセミナーが、皆さんが平和への貢献のために共に働く励みになることを願っています。



※講師の肩書は平成29年11月当時のものです。

その他の活動

研修コースやセミナーの他に、「平和構築・開発におけるグローバル人材育成事業」の一環として、JPO派遣候補者赴任前研修、海外機関との関係強化、人材ニーズ調査などを行いました。

JPO派遣候補者赴任前研修

平成30年1月6日から9日までの4日間、平成29年度JPO派遣候補者選考試験合格者を対象とした赴任前研修を実施しました。経験豊富な講師の方々による大変有意義な研修となりました。各人派遣先の国際機関での活躍が期待されます。

海外機関との関係強化

平成29年9月11日～14日にエジプト・カイロで開催された国際平和維持訓練センター協会（IAPTC）の第23回年次会合や、10月8日～10日にトルコ・イスタンブールで開催されたChallenges Forum年次会合に、HPC職員が出席しました。世界各国のPKOセンター関係者、国際機関等の実務家の方々が集うこれらの会合への参加を通じて、各研修コースの内容拡充を図り、参加者との情報交換や知見の共有による関係強化を図りました。

人材ニーズ調査

ニューヨークの国連本部及びその他の国際機関などで、邦人職員の国連内でのキャリア形成のために強化すべき能力及び各国連機関におけるポストの分布等に関し、聞き取り調査等を実施しました。

